


審査委員会報告書

(課程博士用)

報告番号	甲 第 1207号	授与年月日	平成 30 年 3 月 10 日
学位	博士(看護学)		
氏名	生年月日	昭和 34 年 3 月 10 日 生	
	氏名(国籍)	金子 あけみ	
論文題目	<p>中年期男性のライフスタイルと健康増進行動に影響を及ぼす要因に関する研究 -健康増進ライフスタイル仮説モデルを用いて-</p> <p>A Study on Factors that Influence Lifestyles and Health-Promoting Behavior of Middle-Aged Man -Based on hypothetical model of their health-promoting lifestyles-</p>		
主論文冊数	1 冊		
審査委員会委員	<p style="text-align: center;">(氏 名)</p> <p>主査 北里大学 教授 島袋 香子</p> <p>北里大学 教授 松谷 伸二</p> <p>慶応義塾大学 教授 金子 仁子</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>		
論文内容要旨 審査結果の要旨 試験結果の要旨	<p>別紙 1</p> <p>別紙 2</p> <p>別紙 3</p>		
審査委員会の意見	審査の結果、博士(看護学)の学位を授与できると認める。		

- 【注】 1. 報告番号、学位記番号、授与年月日は、研究科委員会の審査後に研究科において記入する。
2. 国籍は、外国人のみ記入する。

[別紙 2]

審査結果の要旨

審査対象者 金子 あけみ

本研究は、ヘルスプロモーションの視点から人々が自らの健康を維持、増進するためには、自らのライフスタイルについて考え、ポジティブなライフスタイルを構築することが必要であるとの考えに基づいている。健康増進ライフスタイルを「健康状態に対する大きな影響を伴う人々の生活様式における規則的な活動」と定義し、ライフサイクルに応じた健康教育・保健指導への示唆を得ることを目的に、生活習慣病のリスクが高まっている中年期男性の健康増進ライフスタイルの実態と影響要因との関連について仮説モデルを作成し、検証している。仮説モデルは、個人の特性、特性的自己効力感尺度、家族 Apger 尺度、職業性ストレス簡易尺度と日本語版健康増進スタイルプロフィールから構成されている。

インターネット調査に登録した中年期男性 400 名を対象に検証した結果、健康増進ライフスタイルの確証的因子分析において、6 因子構造が示され、中年期男性が「意義ある人生を送っている自信がある」や「自分は少しずつ良い方向に成長していると感じる」で説明される【人生における満足度と成長】を意識しており、【意識的な身体活動】を行い、【健康管理における専門家の助言】を取り入れ、相談する【親しい人】の存在があり、ポジティブに【ストレス管理】を行なっている生き方が浮かびあがった。しかし、測定尺度の栄養に関する項目は全て脱落し、モデルの適合度は採択基準を満たさず、6 因子と影響要因との関連は確認されなかった。そのため、重回帰分析をおこなった結果、中年期男性の健康増進ライフスタイルには、自己効力感、家庭満足度、家族機能の程度、受療の有無、年代、肥満、やせが影響していた。特に自己効力感が大きく影響しており、この特性が健康増進ライフスタイルの因子構造に反映していることが推測された。また、栄養に関する項目が全て脱落した結果は、質問項目に対する回答の共通性が低かったことが原因だと推測された。

本結果から中年期男性への健康教育・保健指導を行うには、中年期男性が意識的に健康行動を行なっていることを踏まえ、主体性を重んじた対応を行う必要性が示唆された。さらに、本研究をすすめていくためには、ライフスタイルが社会情勢や文化的要因による影響を受けること考慮し、測定尺度の精度の改善を図ることが課題として提示された。

審査委員会において、看護学の視点の明確化、独創性、発展性、意義、データ収集及び分析においては十分基準を満たしているとは判断されたが、論旨の展開においては明確さ、論理性に課題を残していることが指摘された。特に、仮説モデルが検証されなかった要因と今後の研究の方向性について、ヘルスプロモーションの視点から詳細に論述する必要性が指摘された。

[別紙 3]

試験結果の要旨

審査対象者 金子 あけみ

上記の論文提出者に面接し、論文内容および関連事項について試問をおこなった結果、合格と判定した。

よって、博士（看護学）の学位を受ける能力を有すると認めた。